

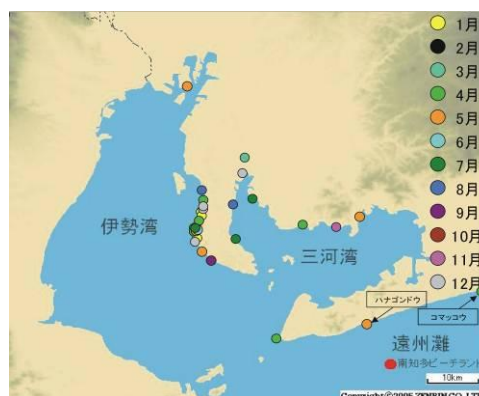
## 2013年にストランディングした海棲哺乳類について

南知多ビーチランドが2013年1月から12月までに取り扱った海棲哺乳類は、合計28例でした。場所は伊勢湾15例、三河湾6例、河川2例、漁港内3例の他、遠州灘で2例ありました(図1)。動物種は3種類で、スナメリが26例、コマッコウが1例、ハナゴンドウが1例でした。性別は雄14例、雌8例、性別不明が6例でした。ストランディングの形態は、海岸への死亡漂着が全てスナメリで23例、港内への迷入がスナメリ2例、海岸への座礁が3例でスナメリとコマッコウ、及びハナゴンドウでした。

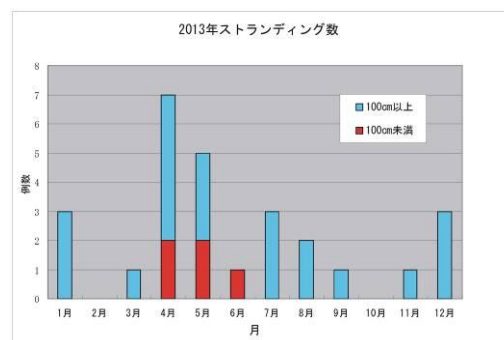
月別の例数は、4月に7例、5月に5例と多く見られ、体長100cm未満の新生仔は5例でしたが、全ての個体が4月から6月までの期間にありました(図2)。

また、目撃例が1例ありましたが、これは12月20日に半田市亀崎港において、複数頭のスナメリが遊泳しているとの連絡があり、22日と24日に亀崎港に5~6頭のスナメリが索餌のため遊泳しているのを確認しました。衰弱している様子はなく、静観することとしました(写真1)。

コマッコウは、4月7日に静岡県湖西市新居町浜名地先の遠州灘で打ち上げられているという連絡がありました。当日の天候は低気圧の接近で波のうねりが大きく、生存している可能性は低いと思われました。しかし、現地到着したときには生存していました(写真2)。打ち寄せる波が大きく、砂浜を転がされたことが容易に想像でき、よく頑張っているものだと感心しました。急いで車に収容し、当園に搬入しました。搬入時の体長は180cm、体長は85kgでした。同日夜、大水槽に解放しましたが自力遊泳することができず、タンカに収容して背ビレか



〔図1〕漂着場所



〔図2〕月別例数



〔写真1〕スナメリ



〔写真2〕座礁したコマッコウ

らの点滴など、治療を開始しました(写真3)。翌日には自力遊泳できるようになりました(写真4)。また、自力摂餌できるようにスルメイカの強制給餌を開始したところ(写真5)、4月10日には自力摂餌ができるようになりました。血液検査の結果、細菌感染症に罹っていることが判明し、抗菌剤の投与をして治療を継続するとともに、捕獲せずに体温測定や採血ができるようにトレーニングも開始しました



〔写真3〕タンカ収容

コマッコウは、自然界では生態も詳しく知られておらず、飼育経験のある水族館は数園のみです。日常の行動も飼育下でないとはほとんど観察することができません。飼育している大水槽には魚類やウミガメを含めてスナメリ 2 頭が同居しています。飼育開始当初は、他の動物に干渉することなく限られた場所で浮いたり沈んだりしている行動が多かったのですが、52日目から他の動物と干渉する行動が見られるようになりました。なお、コマッコウは、赤褐色の大量の糞便を排泄する「つなび」と呼ばれる行動が知られていますが、しっかりとした「つなび」の行動を確認することはできませんでした。



〔写真4〕コマッコウ

残念ながら本個体は、治療の効果もなく8月27日に死亡しました。飼育日数は142日でした。死亡原因は感染症による呼吸不全でした。



〔写真5〕強制給餌

ハナゴンドウは5月30日に愛知県田原市赤羽根町西瀬古地先の遠州灘で打ち上げられているという連絡がありました。幸いにも、現場に居合わせた地元サーファーの方々が水をかけたり、胸ビレの負担を少なくするため穴を掘るなど介護していただいたので、衰弱の進行を防ぐことができました(写真6)。現場に到着し、トラックに乗せ換えて当園に搬入しました。搬入時の体長は265cm、体重は204kgでした。トレーニングプールに解放しましたが自力遊泳することができず、タンカに収容して背ビレからの点滴など、治療を開始



〔写真6〕座礁したハナゴンドウ

しました(写真7)。コマッコウと同様、自力摂餌できるようにスルメイカの強制給餌も開始しました。3日目の6月2日にはスルメイカを自力摂餌できるようになりました(写真8)。しかし、自力遊泳することができず、タンカに収容しながら自力遊泳できるようにリハビリすることにしました。給餌後にプールに解放する時間を少しずつ増加したところ、6月4日には自力遊泳ができるようになりました(写真9)。また、血液検査の結果、細菌感染症に罹っていることが判明し、抗菌剤の投与をして治療を継続するとともに、捕獲せずに体温測定や採血ができるようにトレーニングも開始しました。

ハナゴンドウは当園でも飼育しているので、ハナゴンドウも含めハンドウイルカとカマイルカとの同居を8月から試みましたが、その環境に慣れることができませんでした。10月上旬から動作緩慢、食欲減退が目立つようになり治療の効果なく10月16日に死亡しました。飼育日数は140日でした。死亡原因は劇症膵炎による膵壊死でした。

今回、砂浜に座礁したイルカの救護2例は当園にとって大変貴重な経験となりました。本来、海で暮らすイルカたちが海岸に座礁してしまうことは、体に何らかの異常が起こっているものと考えられ、水族館に保護収容しても生存率は低いのが現状です。今後は、この経験を生かして、座礁したイルカたちの救護に役立てたいと考えています。(大池辰也)



〔図7〕ハナゴンドウ担架収容



〔写真8〕ハナゴンドウの自力摂餌



〔写真9〕ハナゴンドウの自力遊泳